

第 21 回網走市大空町定住自立圏共生ビジョン懇談会議事録

1. 日 時 令和 3 年 8 月 13 日 (金) 18:30～19:30
2. 会 場 エコーセンター2000 3階 視聴覚室
3. 出席者 吉田委員 (座長)、山崎委員 (副座長)
敦賀委員、佐藤委員、成瀬委員、原本委員、川畑委員、
前田委員、二宮委員、中山委員

◆18:30 開会

(中野係長)

定刻となりましたので、ただ今より第 21 回網走市大空町定住自立圏共生ビジョン懇談会を開催いたします。議事に入ります前に、新たに委員になられた方のご紹介をいたします。

網走厚生病院事務部長、敦賀俊介委員でございます。

もう一方、大空町商工会事務局長の佐々木福治委員は、本日、ご都合で欠席されております。

ここで開会にあたりまして、吉田座長よりご挨拶申し上げます。

(吉田座長)

ただ今ご紹介ありました座長をしております吉田と申します。よろしくお願ひ申し上げます。本日は大変お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。

大空町と網走市は平成 23 年に協定を締結し、同年に共生ビジョンを策定し、現在 10 年目となります。

このビジョンは、圏域の将来像や、両市町が連携・協力する具体的取り組みを定めるなど、その内容についてこの懇談会でご意見を賜ってございますので、本日も皆様方から活発なご意見を賜ればと思っておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

今後ともなお一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、私からの挨拶とさせていただきます。

(中野係長)

以降の進行につきましても、吉田座長どうぞよろしくお願ひいたします。

(吉田座長)

それでは、ただ今より本日の次第の 3、議事に入らせていただきます。最初に括弧 1、第 2 次網走市大空町定住自立圏共生ビジョンに係る成果指標の達成状況について、事務局から説明をお願いします。

(中野係長)

それでは、共生ビジョンに係る成果指標の達成状況について、ご説明申し上げます。資料 1、A4 横、成果指標の達成状況についてご覧ください。

本日、初めて懇談会に出席される委員もおいでですので、まず進捗状況の説明に先立ちまして、定住自立圏構想や共生ビジョン、また懇談会を開催する趣旨などについて改めてご説明申し上げます。

定住自立圏構想は、総務省が推進している施策でございます。人口減少、少子高齢化が進展する中、地方の生活基盤が衰退し、将来的に、単独の市町村だけではすべての行政サービスを提供できなくなることが懸念されております。住民の生活環境が密接に関係している地域を一つの圏域として捉え、定住に必要な生活機能である医療、福祉、教育、公共交通などを圏域全体で確保するとともに、自立のための経済基盤や地域の誇りを醸成し、魅力あふれる圏域を形成していくことを目的とするものでございます。

メリットといたしましては、国が推進する各種事業の採択にあたって、事業にもよりますが、優先的に採択されるなどの優遇措置、また、各分野での事業実施に係るハードルが下がることなどがございます。

網走市と大空町は、平成23年3月に定住自立圏形成協定を締結し、同年9月に網走市大空町定住自立圏共生ビジョンを、平成28年4月には第2次ビジョンを策定いたしました。この定住自立圏共生ビジョンは、協定により形成された圏域全体に係る将来像や、概ね5年間にわたる各市町村の具体的取組を記載する事業計画として位置付けられるものでございます。共生ビジョンの策定や所要の変更にあたっては、地域の関係者などからなる懇談会での検討を経たうえで、当該市町村にて協議をすることとされております。それでは引き続き、共生ビジョンに係る成果指標の達成状況について、令和2年度の状況を説明申し上げます。

お手元の資料、はじめに1ページ目救急医療体制の確保をご覧ください。救急医療体制の対応日数と、その下、休日救急体制の対応日数は、それぞれ365日、72日で、現行ビジョンの取り組みが始まった平成28年度以来、5年連続で目標を達成することができました。

次に2ページ、小児科及び産科医療体制の確保です。令和2年度の実績は、産科医療機関数は2施設で前年度から変わりございません。小児科医療機関数は、網走市内の医療機関1施設が開業したことにより4施設となりました。

次に3ページ、観光振興の推進です。女満別空港利用者数の令和2年度の実績は29万7,000人で、前年度から大幅に減少しており、目標の年間100万人には届きませんでした。新型コロナウイルス感染症の影響が顕著に表れております。今後も、空港民営化を契機としたさまざまな利用促進策などを通じて、インバウンドの誘客やプロモーション活動に圏域として継続的に取り組んでまいります。

次にその下、生涯学習の充実です。住民対象講座の受講者数の実績は2,200人でした。

新型コロナウイルス感染症の影響により、こちらも目標には届いておりません。

感染症対策を徹底しながら、引き続き、地域資源を生かした特色ある講座の開催に取り組んでまいります。

次に4ページ、地域ぐるみによる環境関連活動の推進です。藻琴川環境保全対策連絡協議会、また網走湖環境保全対策推進協議会、これら団体の取り組みへの参加でございますが、いずれも目標と同一の1件でございます。

次に5ページ生活環境・衛生環境の向上です。下水道終末処理施設と、その下、し尿

処理施設については、目標と同一の1施設を維持しております。

次に6ページ、防災対策活動の推進です。令和2年度は水害を想定した机上訓練や学習会を両市町の合同で実施いたしました。引き続き、関係機関との連携を図り、防災体制の強化に努めます。

次に7ページ、福祉サービスの向上です。まずは子育て支援センターの利用率ですが、この数値は、網走市にある子育て支援センターの全利用者数に対する大空町民の利用者の割合を示したもので、令和2年度は1.89%でした。引き続き、利用者の増加に向けた周知、また利用しやすい環境づくりに取り組んでまいります。

その下、令和2年度の認知症サポーター養成人数は4,611名で、前年度の4,391名からさらに増加しております。目標の2,800名を大きく上回っている状況ではございますが、今後ますますの高齢化の進展を見据え、認知症に対する理解を深めるため、引き続き、養成人数の増加を図ってまいります。

次に8ページ、圏域経済の活性化と雇用の創出です。事業所の従業員数でございますが、指標としている経済センサス活動調査が5年ごとの実施のため、現時点では平成28年の結果が最新でございます。働き手を確保するため、引き続き、女性の就労機会や高齢者の雇用機会の創出に取り組んでまいります。

次に同じく8ページ、水産資源の確保です。3ヶ年平均の網走湖漁獲量は、目標の900tに対し、令和2年度の実績は808tでございました。令和元年度より実施しているシジミの減産計画の影響により、目標達成に至りませんでした。

次に9ページ地域公共交通の維持・確保です。バス路線は、7路線を維持する目標でございますが、1路線の廃止により、令和2年度の実績は4路線となっております。

本格的な人口減少社会の到来に伴う需要の縮小や、運転者不足の深刻化などにより、地域の公共交通の維持・確保は大変厳しい状況でございます。一方で、高齢者などの運転免許の返納が年々増加している中において、その受け皿としての移動手段の確保はますます重要な課題となっております。これらの課題を解決するため、網走市では昨年度から、AIを活用したデマンドバスの運行実証実験を行っております。引き続き、交通事業者、行政をはじめとする地域全体で、公共交通の維持や高齢者などの移動手段の確保に取り組んでまいります。

次に同じく9ページ、交流・移住受入体制の促進です。5ヶ年平均のお試し暮らしの体験数は、令和2年度の実績は8件でございました。目標の15件に向け、引き続き、さまざまな施策に取り組んでまいります。

次に10ページ、交流人口の拡大です。令和2年度の実績は483名で目標の2,000名を大きく下回っております。主な要因は、新型コロナウイルス感染症の影響によるものです。新型コロナウイルス感染症の影響により、目標を下回ることが今年度も見込まれておりますが、引き続き、誘致活動に努めてまいります。

次に11ページ、人材の育成です。令和2年度の大学等との連携事業数は6件でございました。関係人口の拡大・創出事業など、資料へ記載の事業に取り組んだところでございます。

最後に同じく11ページ、市町間職員研修交流です。令和2年度の合同研修の実施回数は1回でございました。この研修は、数回にわたって開催される研修で、一連の開催

をもって1回と捉えているものでございます。

以上でございます。

(吉田座長)

ただいま事務局より、成果指標の達成状況について説明がありましたが、委員の皆様からご意見がございましたら、お願いします。

(成瀬委員)

3 ページの女満別空港の利用ですが、道外の方は女満別空港を知らない方が多いです。どこに行くにも女満別空港はいい場所だと思っています。

私の知っている範囲ですが、女満別空港のことを話すとそこを起点に色んなところへ行きたいと言う方が結構います。

路線を増やして周知していただければ、観光などにも良い影響が与えられると思います。日本全国に周知していただいて、利用していただくような方法ができればいいと思います。

(二宮委員)

実際に利用率を高めるとすると、利用率を高める動機をたくさん用意するというのが、一番マーケティング的に要求されるところで、我々観光協会としては、広域連携、あるいは地域連携の中で、素材を磨き上げたり、開発したり、インパクトのあるアピールの仕方とかを工夫しております。

それと関連して申し上げますと、今年の7月に Peach Aviation さんが、女満別空港と関西空港で就航し、2 月には、成田空港で就航しておりますので、利用者の広がりも期待できると思っております。

Peach さんが、3 年前に釧路空港で先に就航が始まりまして、その時には、東北海道全体でプロモーションをしました。行政、観光協会、事業者と連携をしながら、アピールしましたが、関西釧路の路線については、思いのほか関西圏で認知されるのに時間がかかりました。一方で、関西のマーケットには、東北海道の自然環境に恵まれた地域は、非常に人気も高く認知度もありましたが、路線については、それほど認知されてなかった。今は、就航して3 年になり、浸透してきましたが、路線一つも大きなマーケットから見ると、認知をしてもらうに時間がかかると一つの事例になるかと思っておりますので、ご紹介をさせていただきました。

(中山委員)

私も今年の2月に成田空港、7月に関西空港を利用しました。

価格は1万円以下で関西空港まで行けますし、今までの感覚は自分たちも変えないといけません。成田空港について、東京の人はすごく遠く感じている。

便数もありますが、考え方を考えさせるようなことをしていく必要があると思います。

(吉田座長)

Peach さんに関しては、東京農業大学と連携協定を締結しています。

7月30日に調印式を網走のキャンパスでさせていただきました。学生はコストが安い方が絶対いいので、例えば4年生で就活で何回も利用できるという使い方ができます。学生と一緒にコラボした商品を開発して、網走の色々な資源を活用したことをやっていくので、上手に大学を皆さんに活用していただいて、一緒に何かできれば面白いと思っています。

あと、女満別空港ですが、7空港一体となったことによって、今まで単体だったものが北海道全体の飛行場として全国的に売っていく戦略はあるのでしょうか。

(二宮委員)

新しい路線開拓ですとか、旅客数をいろんな地域連携を持って増やしていくというご提案をいただいています。もちろん女満別空港も同じで、中期的にはとしてLCCの就航、それから場合によっては、国際チャーター便の誘致さらには、近い将来には、東アジア的なものを一つの具体化するように、我々も取り組みを期待したい。

(吉田座長)

新千歳空港の中で女満別空港とか他の空港も宣伝していただければと思います。一体化したわけですから。

(二宮委員)

これまでは、空港ごとに営業をしていましたが、7空港が同じ経営者ですから、新千歳空港をセールスするのと併せて女満別空港も一緒にセールスをすることはできるだろうと考えています。

(敦賀委員)

観光の側面で女満別空港が出ていましたが、医療の側面でもなくてはならない場所だと改めて思っています。成果指標1番目の医療救急の対応日数365日、札幌の先生が空港から20分ぐらいで病院に来ていただけるということと、休日の対応日数72日も道外から来ていただく先生方もいると思います。

丘珠空港便も若干出ていると思いますし、朝一から来ると病院には9時半に着いてすぐ治療、手術に入れる、そして、夜8時ぐらいの便もありますので、終わって帰るという意味では、非常に助かっています。

観光という意味での女満別空港の利用者数は、確かにコロナ禍で厳しい状況だと思いますが、恐らくこの中に、医療という側面で利用されている方もいると思いますので、そういった方はむしろ増えていると思っています。

何かしらの数値があれば、決して減っている数字ではないと思っています。

常呂厚生病院と摩周厚生病院も女満別空港を利用していますので、引き続き朝と夜の便を継続いただきたいのと、できれば丘珠も増やしていただければ、より利用が増えるかなと思います。

(吉田座長)

空港があれば、定住は難しいけども医療の確保は有利に働く可能性が高いと。

(敦賀委員)

定住されるのが望ましいですが、例えば金曜日の診療が終わって夜の便で札幌に戻り、月曜日の朝、来網できるメリットもあるかと。

(吉田座長)

ありがとうございます。

その他ご意見ありますでしょうか。

(中山委員)

交流人口でスポーツ合宿の人数が上がっていますが、これは観光人口の指標にもなると思います。今観光の形が変わりつつあって、団体に動くよりレンタカーだとかそういった指標を地域の中で聴く必要があると思います。

(佐々木課長)

指標のとり方というところがございます。

空港利用される方が何を目的に、そのゲートウェイを使っているというところは正直分析が難しいだろうと思います。空港を利用して、この地域に入ってくる方は、観光だけではなく、医療関係者、スポーツ合宿もありますので、まずはこの地域に来たいと思わせる風土、土壌、背景を作ることが先だろうと思います。

コロナが明けた後の観光、形が変わってくるということですので、なかなか難しいでしょうけど、引き続き、地域と関わりのある人達を如何にして増やしていくかが重要だと考えております。

(吉田座長)

切り分けが必要でしょう。観光というのは一過的、交流というのはリピーターの方だと思うので、この地域を好きになって、年に1回でも毎年来られることで、定住はなかなか難しいけど、交流は自分が好きな季節に来て、ここで楽しく満足して戻る。

上手にターゲットを分けて、地元にいる我々も良い答えを出していくことがすごく求められるし、ニーズに応じたものを準備することを目標値として設定するもので、スポーツ合宿の場合は、リピートなので交流になっており、観光とは少し違うかなと思います。もう少しその辺のところを我々も指標として立てるっていうのが、これから求められるのではないかと思います。

他にご意見等ありますでしょうか。

(「なし」の声あり)

それでは、次に2番目の1市4町による圏域形成について、でございます。
事務局からご説明をお願いします。

(中野係長)

続きまして、1市4町による圏域形成について、ご説明申し上げます。

お手元の資料2を御覧ください。A4縦の資料でございます。

圏域の拡大については、令和3年1月、網走市、大空町、斜里町、清里町、小清水町の首長による意見交換会が開催され、圏域住民が安心して暮らし続けることのできる圏域の形成を目指し、既存の定住自立圏に斜里町、清里町、小清水町の3町を加えた新たな圏域を形成する合意がなされたところでございます。

今年度は令和3年度スケジュール(案)のとおり進めていきたいと考えており、最終的に令和4年3月末に各町と協定締結をしたいと考えております。

直近では、7月20日に1市4町定住自立圏形成協定の締結に向けた事務担当者の会議を開催し、協定項目や共生ビジョンの具体的取り組みの方向性について、認識の共有を図ったところで

圏域形成のメリットについては、資料の3番、定住自立圏を形成するメリットのとおりとなっております。以上でございます。

(吉田座長)

現在は、網走市と大空町でございますが、1市4町で網走市、大空町、斜里町、清里町、小清水町による圏域形成について検討されているというご説明ですが、今のご説明についてご意見等ございますでしょうか。

(敦賀委員)

医療ですと脳の疾患、心臓の疾患も、殆どこの地域の患者さんを受け入れている体制になっていますので、今の1市1町に加えてというところは、その方が現実的だと思っております。

(吉田座長)

他にご意見等ありますか。

(中山委員)

1市4町となると委員の人員が多くなるのでは。

(佐々木課長)

今、1市1町で19人の懇談会委員で構成をさせていただいております。ここに3町が加わるということで、そのままでは60人ぐらいの規模になりますが、そこは1市4町それぞれの得意分野などがあると思いますので、1市4町から選出させていただく委員さんの数を絞った上で、多くても30名程度が限界と思っております。

大きな懇談会になりますと、意思の統一を図ることが難しいですとか、各団体が様々

な分野全てを網羅することはできませんので、それぞれの特色を見ながら、多くても 30 人程度の委員構成に抑えたいと考えております。

(吉田座長)

今、ご説明のあった形で進められるということによろしいでしょうか。

続きまして、3 番目、任期満了に伴う委員の改正について、事務局からご説明をお願いします。

(中野係長)

それでは引き続き、任期満了に伴う委員の改選について、ご説明申し上げます。

お手元の資料 3 をご覧ください。委員の皆様には現在の、網走市大空町定住自立圏共生ビジョンの取り組みについて、より良いものにしていくことを目的として、ご協力をいただいております。本年 8 月末をもって皆様の任期満了を迎えますため、新たに 9 月 1 日からの委員を選任する必要があるがございます。次期委員の任期については、本来であれば令和 3 年 9 月 1 日から令和 5 年度 8 月 31 日、2 年間ということになりますが、さきにご説明申し上げました、1 市 4 町の新たな定住自立圏が形成された場合に、懇談会も新たに設置することとなります。委員の数も今お話がありましたとおり、あまり大きくならない体制で臨みたいと考えております。そのため、新たな懇談会が令和 4 年度に設置されたと考えますと、このたびの更新によって、令和 3 年 9 月からの委員の皆様任期はおよそ半年間になると見込んでございます。

後日、皆様の所属される各団体へ次期委員の推薦について改めてお願いをいたしますが、実質的な任期がおよそ半年と短くなることが想定されておりますので、可能であれば、引き続き皆様に委員をお引き受けいただけますと幸いです。

以上でございます。

(吉田座長)

ただいま事務局からご説明ありましたように、今期の委員につきましては 8 月 31 日付けで、9 月からは新たな任期が始まるということです。議題 2 でご説明ありましたように、1 市 4 町の定住自立圏が形成された場合は、一度解散ということになるのでしょうか。

(佐々木課長)

そのとおりでございます。

今就任していただいている委員さんの任期は今月末までで、9 月から新しい委員に委嘱をしなければなりません。委嘱の期間は 2 年間と定められておりますので、令和 5 年 8 月 31 日までの 2 年間で委嘱をいたしますが、令和 4 年度で斜里郡 3 町を加えた新たな定住自立圏が形成される予定でございます。そうしますと、網走市と大空町で結んでいた定住自立圏は解散されます。この懇談会も解散されて 1 市 4 町で新たな懇談会を設立しなければなりません。そうしますと、9 月から 2 年間で委嘱をするものの、事実上、残り半年で皆さんの任期が終わってしまいます。残り半年間なので、今の委員さんに引

き続き就任していただくと、内容もよくご存知ですし、懇談会の運営がスムーズかと思っております。

(二宮委員)

残り半年で何か議論する場というのはあるのでしょうか。

(佐々木課長)

今のところ予定されておられません。

(二宮委員)

いつから新しい懇談会は始まるのでしょうか。

(佐々木課長)

来年の3月中に協定を締結して、新たな定住自立圏を形成いたします。取り組みを検討していただく懇談会メンバーは令和4年の4月以降から立ち上げが始まりますので、懇談会委員が存在しない空白の期間というのは出てきます。

(佐藤委員)

ビジョンの方がどうなるか、お話しておいた方がいいのではないですか。

ビジョンも3月末で終わるということでもいいですか。

(佐々木課長)

1市1町のビジョンも3月末で終わります。

(佐藤委員)

新たに1市4町の懇談会を設立した上で審議して秋頃に策定でしょうか。

(佐々木課長)

そのとおりです。

(中山委員)

1市4町の委員は9月頃からの任期ですか。

(佐々木課長)

6月頃には委員構成を定めて、ビジョンの策定を皆さんに検討していただきたいと考えています。

(山崎副座長)

来年の3月31日までに1市1町の懇談会は開催予定ですか。

(中野係長)

今のところ予定しているものはございません。この後、例えば皆様からご意見をいただけるものがございましたら、必要に応じて開催したいと思っております。

(吉田座長)

令和3年度ビジョンの評価はしなくて良いのでしょうか？

(佐々木課長)

令和3年度の検証をするのは令和4年度になってしまいます。令和4年度には1市1町の懇談会は存在しておりませんので、検証できる場がありません。新たな懇談会で参考として報告させていただく程度になると思います。

(吉田座長)

今ご説明があったように委員の改正について、ご了解いただければと思います。あと、1市4町で定住自立圏の形成ができない可能性はあるのでしょうか。

(佐々木課長)

その可能性はもちろんあります。

新たな定住自立圏形成には、それぞれの市町で議会の議決が必要ですので、否決となれば4町ではなく3町、あるいは2町になる可能性もございます。

(吉田座長)

ありがとうございました。

それでは、次第の3その他について皆様方から意見等ありますでしょうか？

(「なし」の声あり)

それでは、以上をもちまして第21回網走市大空町定住自立圏共生ビジョン懇談会を終了させていただきます。本日は大変ありがとうございました。

◆19:30 閉会